

平成27年度 北中城高等学校 地学 シラバス

教科	理科	単位数	4単位	学科・学年・コース・組	3学年選択クラス
使用教科書	地学 (啓林館)			副教材	無し

1 学習の目標等

学習の目標	地学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。
学習のねらい	
第1部 固体地球の概観と活動	地球の形状や内部構造を実験などを通して探究し、地球の概観を理解する。また、地球に見られる様々な事物・現象を実習などを通して探究し、地球の活動を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。
第2部 地球の歴史	地形や地層などの地表に見られる様々な事物・現象を、観察・実験などを通して探究し、地球の歴史を理解する。また、日本列島の地質やその成り立ちを理解する。
第3部 大気と海洋	地球の大気と海洋について観察、実習などを通して探究し、大気と海洋の構造や運動を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。
第4部 宇宙の構造	太陽系の天体や恒星、銀河などについて観察などを通して探究し、宇宙の構造を理解する。

2 評価の観点及び学習計画

(1) 評価の観点

評価の観点及び内容		評価の方法
① 意欲・関心・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学の基本概念や原理、法則について関心を高めているか。</li> <li>・意欲的に授業に参加し、自ら課題を追求する意欲や、地球に関する関心を持っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加の態度</li> <li>・課題活動への積極性</li> <li>・課題、ノート</li> </ul>
② 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの現象を探究し、思考することができるか。</li> <li>・自然現象に見られる普遍の原理を理解し、身近な事例に応用して思考することができるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の論述問題</li> <li>・レポートの考察</li> <li>・授業における質問の内容</li> </ul>
③ 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな実験・実習に習熟し、結果から得られる事実を正しく理解することができるか。</li> <li>・実験・実習によって得られた結果をグラフや表により表現し、結果の意味するところを正確に伝達する技能があるか。また、参考資料などを活用することができるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の論述問題</li> <li>・レポート全体の内容</li> <li>・発表の内容とその方法</li> <li>・コンピュータの活用</li> </ul>
④ 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な地球についての正しい理解を持とうとしているか。</li> <li>・地球の変化について地学的に考察することができるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・課題、ノート</li> <li>・課題研究への取組</li> </ul>

## 3 評価方法とその観点

## 評価方法

●下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解)に評価する。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断する。

## (1)授業への取り組み

授業に対する姿勢、学習態度、地学への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に関心・意欲・態度の項目を評価する。

## (2)ノートに記載内容

授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか等を評価する。

## (3)観察・実験等、実習

実習、映像の視聴等を行い報告書(レポート)を書く。実習等に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書等から評価する。評価の観点のうち、思考・判断、観察・実験の技能・表現に関する配分が大きい。

## (4)教科書・問題集の問題

各問題への取り組み、取り組んだ内容から評価する。

## (5)中間・定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、思考・判断、知識・理解に関する配分が最も大きい。

学期	学習項目(配当時間)	学習内容	活動・備考等	配当時間	進度
1	<b>第1部 固体地球の概観と活動</b>				
	<b>第1章 地球の概観</b> 第1節 地球の観測 第2節 重力で探る地球の内部 第3節 地震波で探る地球の内部 第4節 熱で探る地球の内部 第5節 地磁気で探る地球の内部	重力の観測、地震波の観測、地殻熱流量の観測、地磁気の観測などから、地球内部の様子がわかることを学ぶ。	実習1「重力加速度の測定」 参考「重力異常とチクシュルブクレーターの発見」 実習2「アイソスタシーのモデル実験」 実習3「走時曲線を作成する」 実習4「磁力線の様子を調べる」 参考「方位磁針のしくみ」 参考「玄武洞と地磁気の逆転」	13	
	<b>第2章 プレートテクトニクス</b> 第1節 地球表面を覆うプレート 第2節 地球観の変遷 第3節 プレートテクトニクスとマンタルの動き	種々の地学現象を、プレートの生成や移動で統一的に理解しようとするプレートテクトニクスの枠組みについて学び、プレートテクトニクスとマンタルの動きについて理解する。	実習5「太平洋の海底地形」 参考「マンタル対流とブルーム」	8	
<b>第3章 地球の活動</b> 第1節 地震 第2節 地殻変動 第3節 火山と火成活動	地震や地殻変動、火山の噴火や火成岩の形成などのさまざまな地球の活動を、プレートの運動と関連させて学ぶ。	参考「地震波の周期」 参考「活断層とプレートの運動」 参考「アスペリティーとゆっくりすべり」 実習6「河岸段丘を観察する」 実習7「地形図から断層の動きを読み取る」 実習8「ホットスポットの火山とプレートの移動」 実習9「ライブカメラによる火山活動の観察」 参考「噴火の予測」 実習10「深成岩の色指数を調べる」	12		

1			参考「鉱床」		
	<u>探究活動</u>		1.世界の重力値を調べる 2.偏角・伏角・残留磁気を調べる 3.地震と断層の関係を調べる 4.火成岩の組織や鉱物を観察する	4	
	<b>部末問題</b>			1	
2	<b>第2部 地球の歴史</b>				
	<u>第1章 地表の変化と地層</u>	地層がどのように積み重なり、どのように広がって分布しているか表す地質図について学ぶ。また、造山運動による地質構造や変成岩の形成、地層から情報を読み取って地質時代を組み立てることを学ぶ。	参考「石灰岩地帯の風化による地形」 参考「風による地形」 実習 11「級化構造の観察」 実習 13「地層の広がりや成り立ちを調べる」 参考「断層や不整合の地表での現れ方」 実習 14「放射性同位体の半減期を考える」	17	
	<u>第2章 地球・生命・環境の歴史</u>	生命活動の場である地球表層の地殻や大気・海洋と、生物が、46億年に及ぶ地球史の中でどのように変化してきたのかを学ぶ。	参考「超大陸の分裂と巨大プレート」	8	
	<u>第3章 私たちの日本列島</u>	日本に産する岩石や地層の記録から、日本列島の起源や成長の歴史を学ぶ	参考「3つの島孤が接している珍しい場所～関東地方～」 参考「巨大噴火と火山灰～九州地方～」 参考「日本の鉱床」 参考「衝突でできた北海道中央の山脈～北海道地方～」 参考「フォッサマグナ～中部地方～」 参考「関東平野と台地」	7	
	<u>探究活動</u>		1.水系模様と地形や地質の関係を調べる 2.地質図で地層の広がりを調べる 3.恐竜の足跡化石	3	
	<b>部末問題</b>			1	
	<b>第3部 大気と海洋</b>				
	<u>第1章 大気の構造</u>	大気中の水が気象に果たしている役割をとらえ、雨や雲の形成について学ぶ。また、地球全体のエネルギー収支について学ぶ。	参考「惑星の気温構造」 参考「極成層圏雲と極中間圏雲」 実習 15「高層天気図の利用」 参考「雷」 参考「内部熱源」 参考「放射平衡温度と温室効果の計算」 参考「上空の気温の季節変化」	9	

2	<b>第2章 大気の運動</b> 第1節 風 第2節 大気の大循環と世界の気象 第3節 偏西風帯に位置する日本の四季	風の吹き方と大気の大循環について学び、世界と日本の気候に結びつけて理解する。	参考「偏西風波動の水そう実験」	8
	<b>第3章 海洋と海水の運動</b> 第1節 海洋 第2節 海水の運動	地球環境の形成や維持に大きな役割を果たしている海洋の構造と、海流や深層循環などの海洋の循環、津波や潮汐などの海水の運動について学ぶ。	実習16「T-S図を作成する」 実習17「風による水の運動」 参考「西岸強化のしくみ」	6
	<b>第4章 気候変動と地球環境</b> 第1節 気候変動 第2節 物質の循環 第3節 人間の活動と地球環境	エルニーニョ現象などの自然な気候変動と、気候変動を引き起こす可能性がある人間の活動について、地球表層の物質の循環・輸送と関連づけて学ぶ。		6
	<b>探究活動</b>		1.気象衛星とアメダスの利用 2.雲の高さをはかる 3.台風の通過と気象の変化	3
	<b>部末問題</b>			1
3	<b>第4部 宇宙の構造</b> <b>第1章 太陽系の天体</b> 第1節 地球の運動 第2節 惑星の運動 第3節 太陽系の天体 第4節 太陽	太陽系の天体の運動と特徴について学び、太陽系の中で唯一の恒星である太陽について学ぶ。	参考「時刻と時間」 実習18「惑星の視運動について調べる」 参考「小惑星探査機はやぶさ」 参考「太陽系以外の惑星」	11
	<b>第2章 恒星の性質と進化</b> 第1節 恒星の光 第2節 恒星の性質とHR図 第3節 恒星の誕生と進化	遠く離れた恒星の性質について、恒星からの光を調べることで明らかにされてきたことを学ぶ。	実習19「視差による天体の距離の測定」 参考「ヒッパルコス衛星によるHR図」 参考「ドップラー効果」 参考「Tタウリ型星」 参考「超新星からのニュートリノの検出」 参考「ブラックホールの発見」	11
	<b>第3章 銀河系と宇宙</b> 第1節 銀河系 第2節 銀河と宇宙	恒星と星間物質の大集団である銀河系や遠くの銀河などの天体について学び、宇宙の構造や膨張について学ぶ。また、それが天体観測技術の発達によって次第に可能になっていったことを学ぶ。	実習20「散開星団と球状星団の分布を調べる」 参考「衝突する銀河」 参考「赤方偏移と距離の関係」 実習21「銀河の赤方偏移と後退速度」 参考「恒星や銀河の距離の測定方法」 参考「宇宙の進化のモデル」	7

<u>探究活動</u>		1. 星の写真を撮影する 2. HR 図から考える 3. ハッブルの法則について考える	3
<u>部末問題</u>			1